

月刊

河井克行

平成二十三年十一月一日号

衆議院議員 河井克行事務所

自由民主党広島県第三選挙区支部

国会事務所 TEL:03-3508-7518 FAX:03-3508-3948

広島事務所 TEL:082-832-7301 FAX:082-878-3301

ブログ「あらいぐまのつぶやき」 <http://kawai.fine.to/katsu>

衆議院チェルノブイリ原発事故調査団に参画！

今臨時国会において、憲政史上初めて、国会議員ではない有識者からなる第三者機関が国会に設置されることになりました。

「東京電力福島原子力発電所事故調査委員会」を設置する法律が成立したのです。それに先立ち、民主、自民、公明、共産、社民の超党派13名からなる衆議院チェルノブイリ原子力発電所事故等調査議員団が国会から派遣されました。河井克行代議士は団の一員として、10月5日から13日までウクライナ、オーストリア共和国、フランス共和国を訪問しました。主な日程は、①チェルノブイリ原発の実情調査、実際に被災した人たちとの意見交換、②ウィーンにあるIAEA(国際原子力機関)事務局との意見交換、などです。チェルノブイリではウクライナ政府の特別な許可により発電所のすぐそばまで行きましたが、数日いるだけで年間許容量を超える放射線の値が測定され、25年前の事故の甚大さを実感しました。



チェルノブイリ原発前にて



廃墟と化したプリピャチ市(原発労働者とその家族が住んでいた)中央広場にて

今回の視察で、①正確な情報公開の必要性、②正確な被害状況把握の必要性、③チェルノブイリの教訓・知見を活用する必要性を河井代議士は痛感しました。ウクライナで面会した議会、政府、被災者などすべての関係者が異口同音に当時のソ連政府が情報を隠蔽したことを指摘し、それが政府不信につながり、ソ連邦崩壊の一因となったとの意見もありました。福島原発事故後の民主党政権による情報隠しと共通するところがあり、国会に設置が決まった事故調査委員会による情報公開が大変重要であることを思い知

らされました。被曝者団体「ゼムリヤキ」の役員と意見交換



また現地での聴き取りの結果、河井代議士が特に強く疑問を抱いたのは、200

8年国連科学委員会が取りまとめた事故報告書に「小児甲状腺ガンの死者は15名に過ぎず、高・低線量汚染地527万人に健康への影響は認められない。」などと書かれていたことです。国際機関が実態よりも被害を過少に評価していることへの不信感は被曝者だけでなく、国会議員らからも示されました。

福島原発事故被災者の健康不安は切実です。低線量の放射線が長期にわたり人体に及ぼす影響について、ウクライナと日本が協力して25年前の事故の再調査を行い、それを福島の今後の対策に活かしていく、もちろん、その際に広島65年前の経験・知見をしっかりと活用する、そんな道筋を河井代議士は考えています。これにより、広島—長崎—チェルノブイリ—福島、「被爆(曝)と再生」の絆が一本の線で結ばれることになるのです。

ブータンの国王・王妃両陛下をお迎え！

河井克行代議士の夢が実現

ヒマラヤの山岳国家・ブータン王国のジグミ・ケサル・ナムギャル・ワンチュク国王陛下および同王妃ジツェン・ペマ・ワンチュク陛下には、東日本大震災後初の国賓として、11月15日から20日まで訪日され、東京、福島、京都を訪れました。

平成17年6月、河井克行代議士はわが国政府高官(外務大臣政務官)として初のブータン訪問を行いました。田植えが終わり、早苗が爽やかに揺れている古き良き日本に似た農山村風景に心を動かされ、ワンチュク国王陛下(先代)の謁見では英明さと誠実なお人柄に感激をしました。帰国後、国王に約束した①GNH(国民総幸福量)に関する国際シンポジウムを東京で開催する、②国会議員の普通選挙実施や新憲法の制定など一連の民主化を日本政府が支援する、③日本とブータンとの友好議員連盟を設立する、の実現に奔走しました。翌年、日本・ブータン外交関係樹立20年の記念式典に出席するため、先輩・同僚議員らとともに再び彼の国を訪れた河井代議士は、以来、永田町では『ブータンおたく』と称せられるようになりました。現在河井代議士は、国会の全会派からなる「日本国・ブータン王国友好議員連盟」幹事長を務めています。



参議院議長公邸での歓迎昼食会



歓迎レセプションで親しく言葉を交わす

かねてよりブータン国民の誠実さと王室の親日さに感銘を受けていた河井代議士は五年前に即位された新国王陛下を国賓としてお迎えするよう外務省などに働きかけ、今回それが叶いました。滞在中に河井代議士が最も感動したのは、国王による国会演説でした。日本国と国民に対する温かい激励の数々を聞くうち

に、指導者にとって言葉がいかに大切かを深く感じました。